

笑顔のある人生

2021.12.7

確か11月11日だった。PTA広報委員会担当の先生から、PTA広報紙の原稿依頼が届いた。テーマは「先生方からおくる言葉」である。字数は120字である。短い。

「ああ、もうそんな時期なのかあ」原稿締切は、11月30日である。まだ、時間はある。この広報紙が世に出るのは3月である。まだ11月では、3年生におくる言葉を考える気分にはなれないと言いたいところである。あとでゆっくり考えてもよかったのだが、120字を考えていたら、あっという間に原稿ができてしまった。

3年生のことを考えてみた。すぐに、あるキーワードが浮かんできた。それは「笑顔」である。日常生活での笑顔、授業中にふと見せる笑顔、休み時間や昼休みの笑顔など、3年生には笑顔がよく似合う。一番は、何といても修学旅行での笑顔である。何かから解放されたような中学3年生本来の笑顔が、そこにはあった。生徒の笑顔を見ていると、こちらまで幸せになるようだった。

というわけで、私からおくる言葉は「笑顔」となった。このキーワードをもとに、120字のマス目を埋めた。120字に収めるためには、言葉を吟味しなければならない。文章は短ければ短いほど難しい。

いつも思うのだが、出会いとは時間の長さではない。短い期間でも、何があったかである。何を共有したかである。一瞬の出来事でも、思いが通じ合うこともある。3年生の生徒の皆さんとは、そんな出会いのようなものを感じる。

福島市の中学校に14年ぶりに戻ってきた。中学生の状況もだいぶ変わったこととと思っていた。だが、野田中学校の3年生を見ていると、昔のままのようなどころがある。懐かしく思えてくる。それは、決してわるいことではない。

これから、生きていく上では、ずっと笑顔ではいられないことは分かっている。笑顔をなくし、笑顔を忘れてしまうかもしれない。それでも、笑顔は大切である。笑顔には力がある。自分だけでなく、人を幸せにする力がある。

人はみな笑顔でいたいと思っているだろう。それが、いろいろな事情により、そうはいかなくなることがある。どんなにつらく悲しいことが起きても、笑顔に救われることがある。いつでも笑顔の人がいる。超ポジティブ、前向きな人である。笑顔が輝いている。

多くの人には、笑顔になれる場面があるだろう。それを大切にしたい。自分が笑顔でいられる場所や人である。自分が笑顔になれるときである。自分がどんなときに、どんな場所で輝いているかである。

3年生のことを考えていたら、笑顔のことを考えてしまった。3年生に、笑顔の大切さを教わった。感謝である。生徒から教えてもらえる仕事、それが教員である。